

一般向けの試験費用

試験名称	試験概要	装置スペック	機器使用料	初期費用	オペレータ料※3	成果譲渡料※4	備考
衛星電波予備試験	・搭載アンテナからの放射パターン形状測定 ・電磁適合性(EMC)試験のうち、エミッション試験	3m法電波暗室 電波吸収体内寸6.0mx5.2mx5.0m	10,000円/日	20,000円/日	30,000円/日	20,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
振動試験	ロケット打ち上げの際の振動に耐えられることを検証する	センサーは24chまで 25ch以上は要相談	15,000円/日		30,000円/日	20,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1 クリーンブース使用の場合※2 ISO-17025試験報告書発行の場合※8
衝撃試験	ロケットから切り離す際の分離衝撃に耐えられることを検証する	10cm級、50cm級の衝撃試験	20,000円/日		30,000円/日	20,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1 クリーンブース使用の場合※2
熱真空・熱平衡試験 (大型チャンバー)	軌道上で予測される条件より厳しい温度環境条件下で、衛星が性能を発揮できることを検証する 衛星の熱設計の妥当性の確認及び熱数学モデルの検証を行なう	シュラウド内径1.5m、到達圧力1.0x10 <sup>-5</sup> Pa,液体窒素シュラウド付き	12,000円/日	50,000円/日	30,000円/日	20,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1 クリーンブース使用の場合※2 試験スケジュールの調整について※7
熱真空・熱平衡試験 (小型チャンバー)	軌道上で予測される条件より厳しい温度環境条件下で、衛星が性能を発揮できることを検証する 衛星の熱設計の妥当性の確認及び熱数学モデルの検証を行なう	試験可能サイズ15cm x 15cm x 30 cm, 到達圧力1.0x10 <sup>-5</sup> Pa, 液体窒素シュラウド付き	12,000円/日	30,000円/日	30,000円/日	20,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1 クリーンブース使用の場合※2 試験スケジュールの調整について※7
熱サイクル試験(大)	衛星および衛星部品に対して高温と低温に繰り返し曝す事で、供試体の耐久性を検証する試験	ー190°Cから200°Cまで試験可能。温度プロファイルについては任意のプロファイルが設定可能	12,000円/日	10,000円/日	10,000円/日	10,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1 試験スケジュールの調整について※7
熱サイクル試験(小)	衛星および衛星部品に対して高温と低温に繰り返し曝す事で、供試体の耐久性を検証する試験	ー190°Cから200°Cまで試験可能。温度プロファイルについては任意のプロファイルが設定可能	12,000円/日	10,000円/日	10,000円/日	10,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1 試験スケジュールの調整について※7
真空中機能試験	衛星に使用する部品、素子等の真空環境下で動作することを検証する	到達圧力5.0x10 <sup>-5</sup> Pa	5,000円/日	20,000円/日	10,000円/日	10,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1 試験スケジュールの調整について※7
加圧コンポーネント 圧力試験・リーク試験	圧力容器等が要求通りの耐圧とリークレートをもつことを検証する	試験可能サイズ:15cmx15cmx15cm 真空容器背圧:1Pa	10,000円/日		23,000円/日	10,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1 試験スケジュールの調整について※7
アウトガス試験	ASTM E-595に準拠した アウトガス測定を実施する	ASTM E-595に準拠	100,000円/回		50,000円/種	—	消耗品費用は機器使用料に含む 機器使用料に加え50,000円/種を加算。 1回につき4種まで測定可能。イレギュラーなサンプルの依頼・サンプルの情報開示が不可などその他の場合、単価は割り増し料金(×2)とする。 1種はN=3とし、異なるN数を希望する場合はサンプル種類数をM、1種類当たりの検体数をNとすると ・M×Nの値が12を超えると、12毎に再度、機器使用料が必要 ・N=3以外の場合、M×N÷3の数値の小数点以下を切り上げた整数値を単価に掛ける。 オペレータは九工大のみ 納期:測定1回につき1か月以上
熱光学特性試験	太陽光吸収率および垂直放射率の測定	測定波長範囲 太陽光吸収率:0.25~2.5 μm 垂直放射率:2.5~100 μm	α装置、20,000円/回 ε装置、20,000円/回		15,000円/データ 1検体につきαを2回、 εを2回測定の場合、 15,000×4+20,000× 2=100,000円	—	消耗品費用は機器使用料に含む 機器使用料に加え15,000円/データを加算。1検体につきαを2回、εを2回測定の場合、15,000×4+20,000×2=100,000円 1回につき6データまで測定可能。イレギュラーなサンプルの依頼・サンプルの情報開示が不可などその他の場合、単価は割り増し料金(×2)とする。 オペレータは九工大のみ 納期:測定1回につき1か月以上
衛星組立室 (クリーンルーム)	衛星組立室の利用料		4,000円/日		—	—	
共同利用研究 ※6	各衛星試験設備の共同利用	超小型衛星試験センターの共同利用申請を行い、採択を得た研究に限り、センター保有試験装置を無料で使用出来ることとする。	基本的に無料※5	—	—	—	特殊な機材、消耗品等を使用する場合、相談の上、実費請求あり
UHF帯400/460MHz帯 アンテナ	人工衛星データ送受信用のアンテナの利用料		10,000円/月	—	—	—	
VHF/UHF帯 140/430MHz帯アンテナ	人工衛星データ送受信用のアンテナの利用料		10,000円/月	—	—	—	

利用料金は予告なく改訂することがあります。

試験の合間にコンサルティングが入る場合はオペレータ料が発生します。(例:試験方法の変更を試験期間中に行ったり、計画書と違う試験を行うためのサポートが必要な場合。)

※1: 消耗品費用とは液体窒素、専用治具の作成、センサー類の追加分等を指します。

※2: クリーンブース使用の場合、クリーンブース使用料で10,000円/回を料金として計上する。(この中にはクリーンブース用作業服のクリーニング費用、各消耗品等を含む)

※3: オペレータ料は、センター作業員に機器の操作を依頼する場合に徴収します。尚、1名当たり1日8時間を基本としています。

※4: 成果譲渡料は、試験を行った際に試験成果譲渡対価として請求するものとし、試験の結果を外部に報告、発表しないものとする。

※5: 特殊な機材、消耗品等を使用する場合は、予め共同利用申請を行う際に相談を行う事。

※6: 現在は募集を停止しています。

※7: 真空チャンバー利用時の真空引き~LN2の初期投入、及び真空戻し~チャンバー開放作業は土日、休日にかからないようにスケジュールを立てて下さい。

※8: ISO-17025:2017(試験所認定)に基づいた試験報告書を発行する場合は発行手数料として20,000円を料金として計上する。